令和６年度

美　　術

この試験問題は持ち帰ることができます。

なお，本問題で利用した著作物は，著作権法第36条により，試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。

同目的以外の利用はできません。

（長野県教育委員会）

受験番号						氏名	

〔問１〕 「中学校学習指導要領」（平成29年３月） 第２章 第６節 美術 に即して，次の（ あ ）～（ お ）に当てはまる語句を書きなさい。

> **第２ 各学年の目標及び内容〔第２学年及び第３学年〕**
> **２ 内容**
> **Ａ表現(1)イ**
> (ｳ) （ あ ）目的や条件などを基に，使用する者の（ い ），社会との関わり，機知や（ う ）などから主題を生み出し，使いやすさや（ え ）と美しさなどとの調和を（ お ）に考え，表現の構想を練ること。

〔問２〕 自宅の客間を，訪れる人が心地よく思う場所にするために，壁紙の模様のデザインを考える中学校第２学年の表現と鑑賞の関連を考えた題材を構想し，指導事項を確認した。次の問いに答えなさい。

(1) 題材を始めるにあたり，指導する内容を明確にした。次の（ あ ）～（ う ）に当てはまる語句を，「中学校学習指導要領」（平成29年３月） 第２章 第６節 美術 に即して，書きなさい。

> **第２ 各学年の目標及び内容〔第２学年及び第３学年〕**
> **２ 内容**
> **Ｂ鑑賞(1)イ**
> (ｱ) 身近な（ あ ）の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り，（ い ）や自然との（ う ）などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして，見方や感じ方を深めること。

(2) 指導計画の作成と内容の取扱いにも配慮した。次の（ え ），（ お ）に当てはまる語句を，中学校学習指導要領（平成29年３月） 第２章 第６節 美術 に即して，書きなさい。

> **第３ 指導計画の作成と内容の取扱い ２(1)ア**
> (ｱ) 色彩の色味や明るさ，鮮やかさを捉えること。
> (ｲ) 材料の性質や質感を捉えること。
> (ｳ) 形や色彩，材料，光などから感じる（ え ）や楽しさ，寂しさなどを捉えること。
> (ｴ) 形や色彩などの（ お ）による構成の美しさを捉えること。
> (ｵ) 余白や空間の効果，立体感や遠近感，量感や動勢などを捉えること。

(3) 教師が壁紙の模様のデザインを試作し，構成の工夫を観点に比較して鑑賞する場を設けた。次の（ か ）～（ く ）に当てはまる構成美の要素をカタカナで書きなさい。

・中心線を軸にして，上下もしくは左右が対称となる構成を，（ か ）という。
・「反復」という意味で，統一感のない配色を１つの単位として繰り返す構成を（ き ）という。
・形や色彩の効果によって部分を強調し，全体を引き締める構成を（ く ）という。

(4) 壁紙に用いられた色や模様の配色が，感情にもたらす効果について考える場を設けた。次の（ け ）～（ し ）に当てはまる語句を語群１から選び，記号で答えなさい。

① 色には，暖かさを感じさせる暖色，冷たさを感じさせる寒色がある。これらの温度感は，（ け ）と深く関連している。
② 色は，（ こ ）の高い色ほど実際よりも軽い印象を，低い色ほど実際よりも重い印象を与える。
③ （ さ ）関係にある色を組み合わせると，互いの（ し ）が高く見える。

〔語群１： Ａ 彩度 Ｂ 色相 Ｃ 明度 Ｄ 中性色 Ｅ 補色 Ｆ 白色 Ｇ 類似色 〕

〔問３〕　版画の制作をする題材を構想した。次の問いに答えなさい。

(1)　版画の種類について調べると，大きく４つに分類されることが分かった。４つの版画の種類を語群１から全て選び，記号で答えなさい。

〔語群１　A　凹版　B　絶版　C　平版　D　孔版　E　凸版　F　出版〕

(2)　木版画で使う道具と材料について検討した。次の（　あ　）～（　う　）に当てはまる最も適切な語句を語群２から選び，記号で答えなさい。

①　彫る道具は，版となる板に凹凸をつけるのに便利な彫刻刀と，固い板も彫れるビュランを使用することにした。彫刻刀の種類には，大きく分けて「切出刀」「平刀」「丸刀」「三角刀」の４種類がある。この４つの彫刻刀のうち平刀は，（　あ　）面を彫ったり，彫刻刀で彫った後の（　い　）な部分をさらったりするときに使う。彫り方を工夫することで，（　う　）の表現をつくることもできる。

〔語群２　A　狭い　B　ぼかし　C　広い　D　必要　E　混色　F　不要〕

②　版画に用いる絵の具について検討した。以下の文章や表１の（　え　）～（　き　）に当てはまる最も適切な語句を語群３から選び，記号で答えなさい。

版画に用いる絵の具には，（　え　）絵の具と油性絵の具がある。

（　え　）絵の具には，墨，（　お　）などがある。（　え　）絵の具の特徴を右の表１にまとめた。この結果から，生徒が，表したいことに合わせて，着彩する順序や場所を変える，水の量を調節するなどして，様々な着彩方法をつくりだせるよう，（　え　）絵の具を使用することとした。

表１

《特徴》
・淡い色彩表現に向いている。
・混色，（　か　）ができる。
・片付けがしやすい。
・乾燥が（　き　）。

〔語群３　A　水性　B　酸性　C　ポスターカラー　D　チョーク　E　遅い　F　早い　G　重色　H　バチック〕

③　版画に適した和紙を選ぶことにした。A～Cの和紙の説明は，く～こ のどの和紙の種類を説明したものか記号で答えなさい。

和紙の種類
く　楮（こうぞ）紙
け　鳥の子紙
こ　雁皮（がんぴ）紙

和紙の説明
A　滑らかな肌触りで使用しやすい。
B　繊維が細く短いため，薄手で半透明。
C　繊維が長く丈夫なため，強い摺りにも耐えられる。

④　版にする板材を検討した。次の（　さ　），（　し　）の中に当てはまる最も適切な語句を語群４から選び，記号で書きなさい。

生徒が必要に応じて木目の模様を生かした表現も取り入れられるよう，木の幹を（　さ　）に切った板目木版と，木の幹を輪切りにした（　し　）木版の２種類の版木を用意することにした。

〔語群４　A　木口　B　縦　C　横　D　逆〕

(3)　材料の特徴を生かした画面構成を考える学習場面を構想した。次の（　す　）に当てはまる最も適切な語句を語群５から選び，記号で答えなさい。

斎藤清がつくった図１の作品「競艶」を鑑賞する場面を設けることにした。猫の毛並みを表すために板の（　す　）を生かして制作されている。

〔語群５　A　間　B　木目　C　樹皮〕

図１「競艶」（木版）

やないづ町立斎藤清美術館蔵

(4)　着彩場面において，生徒が様々な着彩の仕方をつくりだせるよう，着彩の技法を体験する場を構想した。

①　図２の作品「観音経曼荼羅　阿修羅の柵」を鑑賞し，この作品の制作に用いられた着彩の技法を体験する場を設定することとした。図２の作者を漢字で書きなさい。

②　図２の作者は，版画の裏面から彩色する（　せ　）と呼ばれる技法を用いた。

（　せ　）に当てはまる着彩の技法名を以下の語群６から選び，記号で答えなさい。

〔語群６　A　裏彩色　B　多色塗り　C　吹き流し　D　ステンシル〕

図２「観音経曼荼羅　阿修羅の柵」（木版）

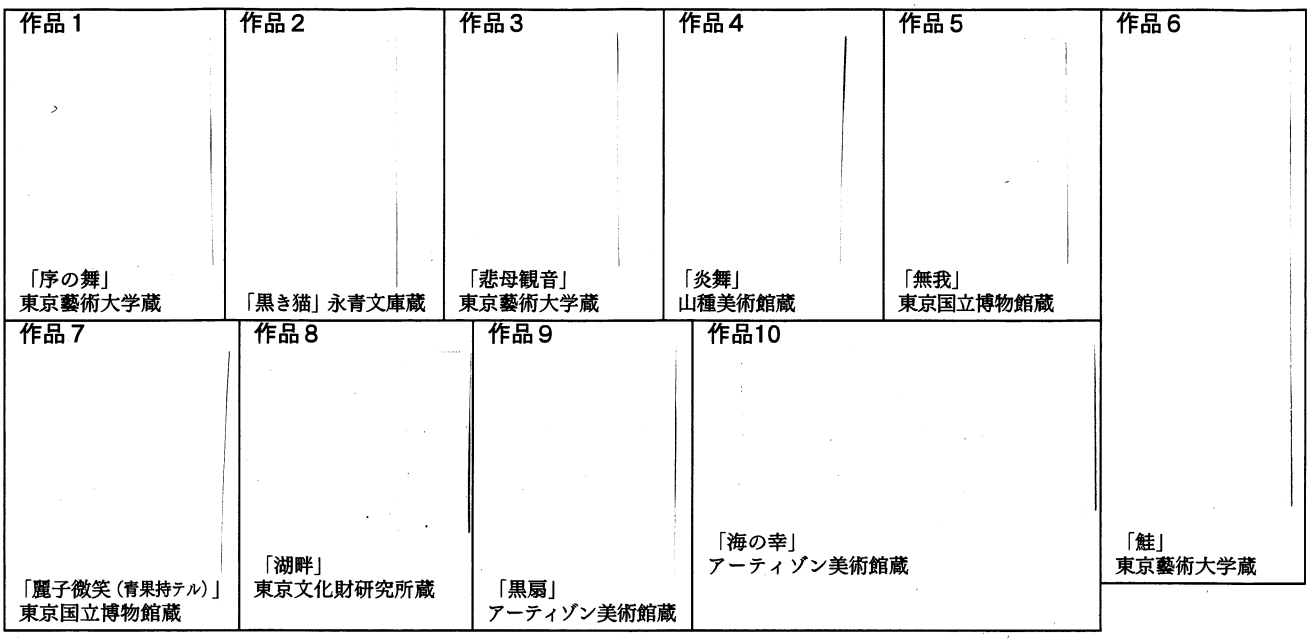
日本民藝館蔵

③　着彩の際に，生徒がぼかしに興味をもつことが予想されたため，ぼかしをつくるための着彩方法について教材研究を行った。（　そ　）～（　ち　）に当てはまる最も適切な語句を語群７から選び，記号で答えなさい。

・２色の絵の具をまぜてグラデーションをつくる着彩方法を（　そ　）という。
・濡らした版木の上に絵の具をのせ，布で拭きとる着彩方法を（　た　）という。
・バレンに込める力の入れ具合をかえることで，ムラやかすれた調子をつくる（　ち　）とよばれる着彩方法もある。

〔語群７　A　デカルコマニー　B　拭きぼかし　C　付け合わせぼかし　D　エンボス加工　E　ゴマ摺り〕

〔問４〕　明治以降に活躍した日本人画家の作品を鑑賞する授業を構想した。次の問いに答えなさい。



(1)　作品１～作品10の作者名を語群１から選んで記号で書きなさい。

［語群１　A　狩野永徳　B　高橋由一　C　黒田清輝　D　狩野芳崖　E　青木繁　F　上村松園　G　菱田春草
H　横山大観　I　岸田劉生　J　藤島武二　K　土田麦僊　L　岡倉天心　M　速水御舟　N　平山郁夫］

(2)　作品１～作品５の日本画について，次の（　あ　）～（　か　）に当てはまる最も適切な語句を語群２から選び，記号で答えなさい。

・作品１の作者は，作品「序の舞」について，「優美なうちにも毅然として犯しがたい女性の（　あ　）を描いたつもりです」と，著書に記している。

・作品２は，（　い　）はなく，猫の毛は墨のぼかしによって表され，柏の葉は金泥によって塗られている。また，作品２の作者は，作品５の作者と共に，空気や光線などを表現するために，輪郭線を用いずにぼかしを伴う色面描法である（　う　）と呼ばれる表現方法に取り組んだ。

・作品３の，水瓶からしずくをたらし，赤ん坊に命が与えられるという図像は，西洋・東洋の思想にはない作者の（　え　）である。

・作品４は，古典的な様式性と対象を客観的に捉えようとする（　お　）が結合され，それまでの日本画には見られなかった象徴的な作品である。

・作品５は，無我という（　か　）的な概念を無垢な子供の姿で表している。

［語群２　A　ゴシック体　B　気品　C　独創　D　朦朧体　E　抽象　F　写実性　G　装飾　H　背景］

(3)　作品６～作品10の洋画について，次の問いに答えなさい。

①　作品６，作品９，作品10を，制作された年が古い順に左から並べ，番号で答えなさい。

②　次の（　き　）～（　け　）に当てはまる最も適切な語句を語群３から選び，記号で答えなさい。

・作品７の作者は，「形に即した美以上のものその物のもつ精神の美，全体からくる（　き　），顔や眼にやどる心の美，一口に云えば深さ，この事を僕はこの子供の小さい肖像を描きながら或る処まで会得した。この事はレオナルドに教えられる処が多かった」と，「自分の踏んで来た道」『白樺』第10巻第４号に記している。

・作品８に見られる，陰を紫で描くといった（　く　）色彩による光の表現を目指す作者や久米圭一郎などの画家は（　け　）と呼ばれた。

［語群３　A　慶派　B　夜景の美　C　印象　D　外光派　E　質感　F　無形の美　G　暗い　H　明るい］

〔問５〕　配られたモチーフ（目玉クリップ，布，消しゴム）を組み合わせて構成し，それぞれの質感をとらえて，鉛筆で画用紙にスケッチしなさい。